



12/12年後

介護現場の実態を訴える

久保 遼太郎さん

「仕方ない」を変える

コロナ禍で多くの介護現場からの悲鳴を聞いてきました。と涙められていく事業所もありました。2枚のサージカルマスクは洗って使い回します。初はサージカルマスクが足りず、1週間に一人2枚まで、かっていながら使い回さなければならぬ状況でした。

久保・りょうたろう
東京医療労働者連絡会
1990年生まれ。



～コロナ禍で立ち上がる～

「はじめて被災」をされ、傷ついたこともあります。コロナ禍での介護への国の危機感が上がっている。たださあまつら人浴介助。今年はマスクにカクルもつけて行わなければならず、過酷な働きの中での介助となりました。参加するきっかけとなっていきました。参加した人に運動になりました。参加してから実感をどう持つてものであるかによって、その運動の熱意が変わってくることがあります。まずは外に飛び出して一緒に外へ飛び出していくことが、と考えています。また延した「仕方がない」多くの反響がありました。「コロナ禍の中でエッセンシャルワーカーとして介護職の働きで、今まで介護は頑張っていました。そう重要な認識は広がっていました。11月に久しぶりに行なった中で、コロナの影響によつて感じます。来年度の介護事業所は大きく減収。健康保険制度改定に向けた議論では、直接職員に努力してのためにもたくさんの年間どそのしわ寄せは介護労働者にがまさに行われて、「ね」と応じます。それでも、利用者からもほんの少しでも頑張っていきたいです。

事態になってしまいます。

時だと想つてあります。

言葉では表現できなんものが

あるがと改めて感じました。今は、新しいきっかけで

参加してくれた人がやつ

コロナ禍での介護への国の危機感が上がっている。たださあまつら人浴介助。今年はマスクにカクルもつけて行わなければならず、過酷な働きの中での介助となりました。参加した人に運動になりました。参加してから実感をどう持つてものであるかによって、その運動の熱意が変わってくることがあります。まずは外に飛び出していくことが、と考えています。また延した「仕方がない」多くの反響がありました。「コロナ禍の中でエッセンシャルワーカーとして介護職の働きで、今まで介護は頑張っていました。そう重要な認識は広がっていました。11月に久しぶりに行なった中で、コロナの影響によつて感じます。来年度の介護事業所は大きく減収。健康保険制度改定に向けた議論では、直接職員に努力してのためにもたくさんの年間どそのしわ寄せは介護労働者にがまさに行われて、「ね」と応じます。それでも、利用者からもほんの少しでも頑張っていきたいです。

言葉では表現できなんものが

あるがと改めて感じました。今は、新しいきっかけで

参加してくれた人がやつ

もほんの少しでも頑張っていきたいです。